理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

一〇・四 印教研 理科研究部集会 講評と会員の声

小学校低学年　講評　高橋　正昭先生

低学年部会の提案は、ほとんどの部会が生物分野を中心に、研究の年数は違っても、観察実験を通して自然を愛する豊かな心情を培うことに努力され、日常の実践に直結する研究であった。

三部会、三年のさし木さし芽の実践、四年の開花や就眠運動の地域素材の教材化は大変参考になるものである。また五部会のモンシロチョウのう化の観察も、体のつくりの巧みさを、他のこん虫や視聴覚機器等も活用しながら多面的に理解させようとしている実践でとてもよい取り組みである。これらの実践は、生物教材の多様性、共通性、生命の連続性を教える上で重要な研究になるので、地域素材の教材化を一層すすめてほしい。

一部会の理科教育における環境教育の取り組みも、授業実践二年目を迎え、充実した取り組みがされ、大いに成果があったとの報告であった。

・感受性を豊かにする工夫
・興味関心を高める工夫
・植物の環境に敏感な目を持たせる研究
・児童の学習意欲を駆り立てる工夫
・理科的心情を育てる工夫

以上は各部会の主題の要約である。それぞれの部会が、グループ研究を重ね、その結果として、互いに成果を認め合えたことは、よろこばしいことである。

提案の中で気づいたこと

一、感動とか感受性とかは、ひとまとまりにとらえ、連続性をもたせたい。連続性をもったものは、問題解決というひとまとまりの過程に通じるもので、その過程で、見方や考え方も育っていくものと思う。理科の目標である問題解決の能力、自然を愛する心情、科学的な見方・考え方はそれぞれ独立したものでなく、関連させながら育てていくものではないかと思う。

一、研究に際し、仮説とのかかわりで、成果をどう見定めるか、そのための評価方法が検討されるとよい。研究の到達目標といえよう。

一、学習指導要領の各教科等の目標、内容を確実に実施することが環境教育の成果につながるとの基本認識に立つ必要がある。

終わりに、教研集会がより実り多く充実した成果をあげるため、会員に一層の興味と関心を持たれる提案を期待したい。

中学校講評　本橋　茂次先生

今年の分科会は、活発な意見交換があり、充実した内容であった。

一部会は、実験・観察を通じて遺伝・発生の興味・関心を高めようとする試みであり、生徒が聞くだけの授業から、自分たちが直接参加しながら学習できるように工夫されたもので、他の学校でも実践可能なものである。

二部会は、パソコンをフルに活用して天体学習の空間的・時間的把握のむずかしさを解決しようと試みたもので、教材を工夫して視覚的にとらえさせている。さらに、天体学習を年間を通じて学習できるよう実践したものである。

三部会は、生徒の科学的思考力の低さをアンケートで分析し、実験・観察を通して、「なぜ…」、「どうして…」と疑問をもたせる場を多く設定しようとしており、来年度の実践が楽しみである。

四部会は、知らぬ間に進んでいる環境破壊、これをジョロウグモミノムシ、ツバメ等に目を向けさせ興味・関心を高めている研究はすばらしいもので、大気汚染は工場や自動車だけでなく、自分たちも関与している事を認識させている。

五部会は、一時の興味づけにとどまらず、その感動や意欲を将来まで持続させようとする研究で、生涯学習へ結びつけて考えていることは新しい試みとして興味深いものである。次年度の発展的研究が楽しみである。

小学校高学年　講評　安井　寅蔵先生

今回の提案は、四部会を除き、二年以上の継続研究によるもので、それは、結論すると、確かな研究仮説のもとに、充実した研究がなされていた。特に年間指導計画への位置づけが明確であり、系統性もふまえた日常の実践に直結するものであった。

二部会の人体においては、体感を通して学習させることを中核として、三、四年生の発達段階に即して、教材、教具の工夫、開発を行っていた。特に四年の体温や脈拍をとらえさせる研究は、とても参考になると思われる。四部会も地学分野を取り上げているが、印旛は川が少なく、指導の難しい流水のはたらきの研究を始めたので今後の研究に期待したい。

今後、どの部会も、多くのデータの積み上げと取捨選択、情意面の評価の工夫に努力してほしい。

会員の声

「低学年分科会より　吉岡小　竹村　千恵美」

初めて理科部会に参加しましたがどの提案も興味深く聞かせていただきました。

開会行事のあいさつの中に「たくさんのおみやげを持ち帰って下さい。」とありましたが、発表資料を拝見し、早速活用してみようという気持ちになりました。特に植物単元を扱った提案は実践に基づいたもので、素材の準備から実験方法、実践報告まで詳しく書かれてあり、自分として苦手な単元だけに大いに参考になりました。また印旛郡市には身近に大きな川がないので扱いにくい「流れる水のはたらき」の単元を取り上げた研究が今年から始められたということでしたが、興味のある分野なので来年の発表を聞くのが楽しみです。

「高学年分科会より　小竹小　青木　智恵」

各部会の提案を通して、今求められている理科教育における児童の主体的な学習、人体や環境教育に関連する学習の重要性を強く感じ、大変勉強になった。中でも、二部会の「人体に関係した単元を通して」の提案は非常に興味深く是非実践してみたいと思っている。子供達にとっても興味深い内容であり、その関心を持続させられる指導計画であると感じた。三部会の提案も、自分が植物教材は避けて通りたいと思ってしまう教員の一人であるだけに、勉強になった。これも是非実践したい。

また、子供達の発想を生かして実験方法などを考えさせるためには、教師側の十分な研究と、柔軟な対応が必要であると痛感し、今後の課題にしたいと思っている。

「中学校分科会より　原山中　仲田　正弘」

毎年、印教研集会に参加するたびに、いつもこう思う。「自分ももっと頑張らなくては！」と。

教員になって七年がすぎ、昔は教材研究や予備実験に費やしていた部活終了後の時間も、最近は準備室にとじこもる機会がめっきり少なくなり、つい昔の"貯金"で授業を行うことが多くなってしまうこの頃である。

そんな時、この印教研や、それに向けての研究員集会に参加することは、とてもいい刺激になる。今年も、各部会から様々な実験や方法の発表があり、その中には今すぐにでもやってみたいものがたくさんあった。「よし、俺も頑張るぞ！」

願わくば、この気持ちが来年の印教研まで続いてほしいものだ。